



クリーンな色合いと素材感で構築された、台湾吉野家のリニューアル

吉野家 市府店

Casual Restaurant YOSHINOYA SHI FU, Taiwan
Designer Ivy Lee / LEE'S INTERIOR DESIGN INC.

設計/文儀室内装設計 李 紹瑄 童 資雅 藍 培楓
協力/電気設備 謝 錦煌 照明計画 徐 福君
施工/文儀室内装設計
撮影/古 之韻

左/店舗外観。台北市内の繁華街の大通り沿いに位置する 右/エントランスのブラケット照明とサイン



ブランドの継続と新たな発展

吉野家のブランドイメージを一新させるプロジェクト。対象店舗は台北市内にある開店から5年が経過した市府店。依頼主である台湾吉野家から与えられたテーマは、「吉野家/Slow life/Slow food/Sharing」。

設計にあたりまず考えたのが、100年を超える吉野家の歴史と、その吉野家が生まれた日本という悠久の歴史を持つ民族の心。日本の家屋のイメージを土台にし、その上に、台湾で若者に好まれるロフトスタイルの要素を少しずつ取り込んでいった。例えば、和の心を表しているのは、大黒柱のように1階から2階まで貫く柱。この柱は廃材を使用しており、輪廻転生と歴史の継承を感じて欲しいと考えた。階段の手すりは障子の格子の形をモチーフにし、子供達がにぎやかに走り回る田舎の日本家屋をイメージ。階段の照明は、神社の参道に並ぶ鳥居をモチーフに、日本の家族がお参りに行く光景をイメージした。一方でロフト風の要素を、ファサード、洗面所、ランプ・照明、レンガなどに大胆に取り入れ、子供のような純真な心を想って白色を基調にまとめた。

最後にSharing。大きな机はみんなで同じ空間に座ることができ、店内の白い壁と木目の壁の境界を机がまたいでいる。その境界は床から天井まで伸び、境界の左右の区別なく、それぞれの空間が馴染んで一体化する。

ロゴやファサードの照明は、本来の吉野家のイメージカラーであるオレンジが白い壁にやさしく輝くようにしており、ブランドの継続性と新たな発展という意味を込めている。

〈李 紹瑄/文儀室内装設計〉



1階店内をエントランス付近から見通す。右奥の2階に続く階段の手すりは日本の障子、照明は参道に並ぶ鳥居をイメージした



1階レジカウンター周り。左奥の冷蔵庫にはテイクアウト用のサンドウィッチやサラダ、ドリンクが並ぶ。右側の古材を利用した柱は1、2階を貫く



左/2階客席。中央に大きなテーブルを配した。窓際の壁は木目調、店内側の壁は白塗装と仕上げを変えている。右/階段脇の手洗い場。家具や小物は白色で統一感を出している

「吉野家 市府店」data

所在地：台北市忠孝東路五段155 1、2階
 工事種別：内外装 全面改装
 床面積：152㎡/1階75㎡（うち厨房40㎡） 2階77㎡
 工期：2014年9月22日～10月27日
 総工費：3000万円/解体撤去費70万円 ファサード50万円 サイン200万円 内装造作費1640万円 空調設備費180万円 電気設備費120万円 給排水衛生設備費120万円 厨房設備費300万円 照明器具費160万円 音響設備費30万円 家具什器費130万円
 施工協力：サイン/金城招牌工程

営業内容

開店（リニューアル）：2014年11月11日
 営業時間：午前7時～午後10時（土・日曜日、祝日のみ午前8時～午後10時30分）
 定休日：なし
 電話：+886-2-2756-8578
 経営者：台湾吉野家股份有限公司
 従業員：サービス4人 厨房3人 合計7人
 客席数：42席
 客単価：230WD（1TWD≒3.76円）
 主なメニューと単価：絶響牛丼270TWD 野菜サラダ260TWD 鮭スパゲティ-310TWD トマトと牛肉のサラダレモン風味290TWD 豆乳90TWD コーヒー130TWD ハッカ茶120TWD 黒ビール150TWD

主な仕上げ材料

サイン：フィルム素材 スチール 電球色LED照明
 床：磁器質タイル600角貼り 木目調磁器質タイル貼り
 壁：ケイ酸カルシウム板下地白塗装 レンガコンクリート 固定白ペンキ塗装 メイプル材特殊樹脂塗装 コンクリート特殊樹脂塗装
 天井：ラワン材下地ケイ酸カルシウム板貼り
 家具：テーブル/栓材
 照明器具：タイマー内蔵調光システム ハロゲンランプ フィラメント電球 間接照明

